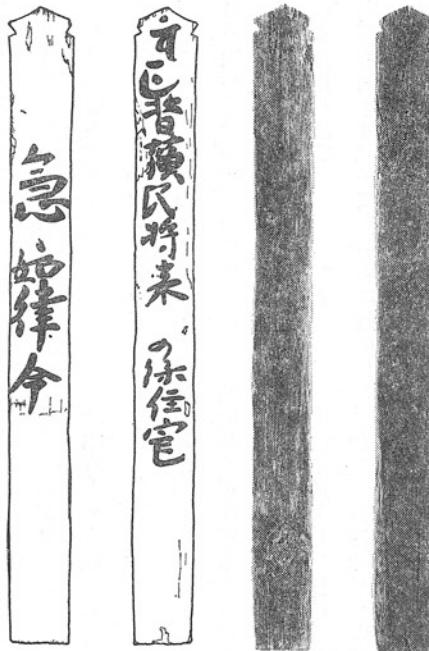


なお、私説については奈良大学水野正好氏、奈良国立文化財研究
所史料調査室の諸氏からのご教示を得た。

9 関係文献

松本啓子「山之内遺跡のまじない札」(助大阪市文化財協会『葦火』)
三三 一九九一年)

(松本啓子)



大阪・勝山遺跡

かつやま

1 所在地 大阪市生野区勝山北三丁目
2 調査期間 一九九〇年(平2)一〇月~一月
3 発掘機関 助大阪市文化財協会

4 調査担当者 高井健司・松本百合子
5 遺跡の種類 遺物包藏地
6 遺跡の年代 繩文と江戸時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

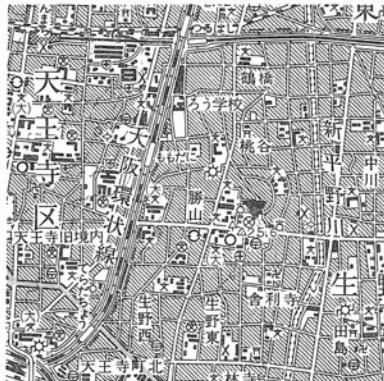
勝山遺跡は、大阪平野を南北に延びる上町台地の東縁にあり、御勝山古墳の北方に位置する。御勝山古墳では、周濠・造出し・葺石

・埴輪が確認されており、
築造年代は五世紀前半と考

えられる。また、大阪夏の陣の際に徳川秀忠が岡山本

陣を構えたことが知られており、当時の堀割も、古墳の西側で見つかっている。

調査は古墳に関連する遺構の存在を予想し、後円部



(大阪東南部)

廿二年作佛号回淨身多陀阿伽度阿羅



(1) 「菩薩次_□_{〔當〕}作佛号_{〔回〕}淨身多陀阿伽度阿羅」

305×31×0.5 011

8 木簡の釈文・内容

木簡が出土した溝は、トレンチ内でほぼ東西方向に流れしており、検出部の幅は約三・四m、深さは約一・五m、横断面はV字形である。溝内は、細粒砂・シルト・粘土からなる水成層が堆積しており、かつて水が流れていたことを示している。木簡は、底に近い部分の砂と粘土の境で見つかった。周辺の堆積土の状況から、他所から流れてきたものと考えられる。その他、瓦質羽釜・白磁碗・須恵器・土師器・埴輪が少量出土した。

に向かって九m×一七mのトレンチを設定した。調査の結果、岡山本陣に関わるとみられる近世の深い堀割、中世に掘削された溝（木簡出土）、奈良時代の耕作痕跡、さらに最下層では粟津S-Z式土器を含んだ縄文時代の流路が見つかった。遺物も、埴輪・須恵器・土師器・瓦器などが出土したが、古墳に直接関わる遺構は検出できなかつた。

木簡が出土した溝は、トレンチ内でほぼ東西方向に流れており、

非常に薄い杁目の板材を用い、先端をわずかに山形に切り取っている。文字に若干の異同はあるが、『妙法蓮華經』序品第一の一句を記したものである。ただし、八字目の「曰」を「回」としている。『法華經』の柿板材書写は、平安時代以降に貴族の間で流行し、水辺に流した例も見られる。本例も、そうした一例といえるかもしない。

なお、釈読には鳥居信子氏の協力を得た。

9 関係文献

松本百合子「はじめまして勝山遺跡です」（助大阪市文化財協会『葦火』三一 一九九一年）

（松本百合子）